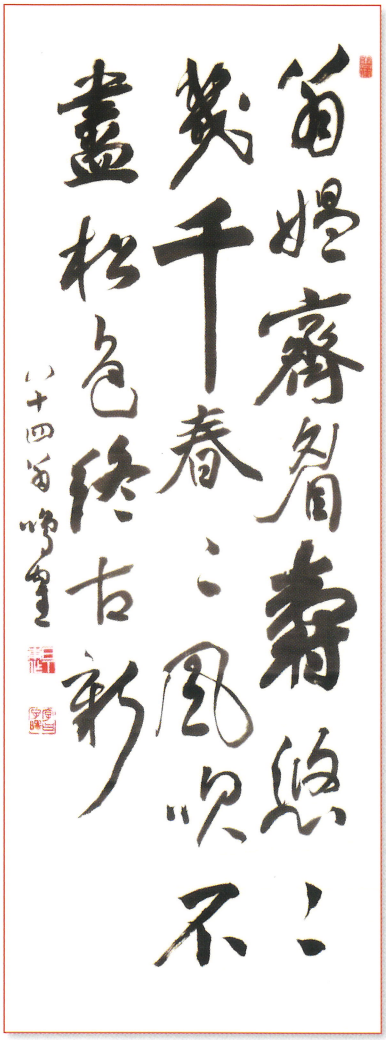
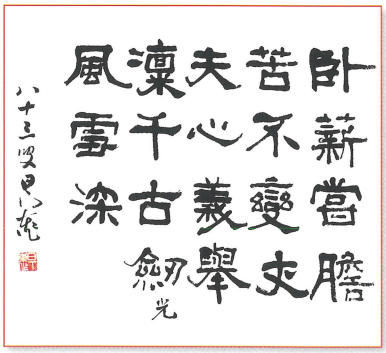
日下部鳴鶴（一八三八～一九二二）は、中林梧竹・巌谷一六と共に、明治の三筆の一人と称される書道界の巨人です。鳴鶴は、当初貫名菘翁の書に傾倒していましたが、明治一〇年代に清国公使随員として来日した、楊守敬のもたらした大量の碑板・法帖を実見して以来、漢魏六朝の書を学びました。そしてその中から中国歴代の書法の変遷を吸収、特に六朝書を取り入れるとともに、廻腕執筆法を習得しました。これにより、従来の晋唐の法帖を中心とする学書から、中国書道史の全体を見わたしての臨書による学書へ、そして多様多彩な書法の中から、独自・清新な書風の創出へと、時代の先頭を切り拓いていったのでした。

鳴鶴はまた後進の指導育成にも力を注ぎましたが、その学書に当たっては、師法を強制することなく、それぞれの個性を伸張・発揮させることに努めました。門弟には俊秀が多く、それぞれが個性を発揮しながら大成し、更にその後進を育て上げるなど、鳴鶴に端を発する門流は隆盛を極め、現代書道に繋がっているところです。この影響力の大きさから、近代書道の父とも称されました。

本展では、この鳴鶴の若い時代から円熟した時代までの作品、四十九点を展覧します。近代書道の形成に燃えた巨匠の書業の一端に触れていただき、その息吹を感じ取って戴ければ幸いです。



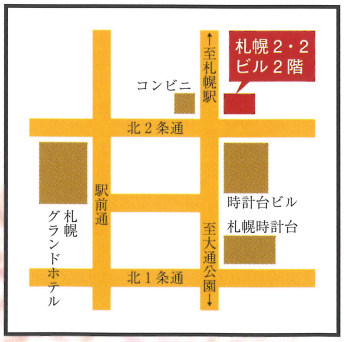
▶翁媼齊眉壽～



▶臥薪嘗胆苦～

▲薄夜蓮塘帶醉歸～

小原道城書道美術館

〒060-0002
札幌市中央区北２条西２丁目41
札幌２・２ビル２階
お問い合わせ先：011-552-2100

入館料：300円（大学生以下無料）
開　館：午前10時～午後５時
休　館：毎週月曜日
交　通：JR札幌駅より徒歩５分、
地下鉄さっぽろ駅・大通駅より各徒歩５分